

ロジスティクス環境会議
第5回広報・普及専門委員会

2004年10月15日(金)16:00~18:00
(社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- 1) シンポジウムについて
- 2) その他

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : シンポジウムの企画概要 (案)
資料2 : シンポジウムの骨子とシナリオ (案)
資料3 : シンポジウム参加者動員計画 (案)
参考資料1 : 第4回広報・普及専門委員会 議事

以 上

ロジスティクス環境会議
第 1 回シンポジウムの企画概要 (案)

1. 目的:

- 1) ロジスティクス環境会議 (以下、CGL) の検討内容(状況)および検討によって明らかになる課題や成果を周知する。
- 2) 効果的に環境負荷低減を実現する考え方や環境活動の定量的な把握の重要性、評価尺度等の課題を明らかにし、広く産業界に投げかけることによって、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。
- 3) 民間企業だけでは解決できない課題については、関係各省等に対して投げかけを行う。

2. 概要:

■日時: 2004年12月17日 (金) 13:30~17:00

■会場: 経団連ホール

■参加対象: これから環境活動を推進したいと考えている製造業、流通業、物流業、その他

■登録料金: CGLメンバー: 無料、CGLメンバー以外: 無料

※環境活動に取り組む企業を増やすため、CGLメンバーから取引先、協力会社等の方々へ積極的にお声掛けいただきますよう、お願いいたします。

※CGLメンバーからご紹介いただいた方は、無料にさせていただきます。

⇒参加登録書に紹介者の社名、所属役職、氏名、電話番号等を記載していただく。

■参加人数: 400名 (予定) ※経団連ホール最大収容人数: 470名

■後援: 経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省 (申請予定)

■協賛: 日本経済新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK (申請予定)

3. プログラム構成 (案):

13:30~13:35 (5分)	開会 「主催者挨拶」 杉山 武彦 氏 ロジスティクス環境会議 企画運営委員会 委員長/一橋大学 学長
13:35~14:20 (45分)	基調講演:「環境対応と企業価値向上」先進企業の経営トップ層 候補:富士ゼロックス(株)⇒交渉中 日本アイ・ビー・エム(株)、住友スリーエム(株)
14:20~14:50 (30分)	「ロジスティクス分野における環境負荷削減に向けた展開と課題」 ～環境パフォーマンスの測定、評価の視点から～ 増井 忠幸 氏 ロジスティクス環境会議 環境パフォーマンス評価手法検討委員会 委員長 武蔵工業大学 環境情報学科 教授
14:50~15:10	休憩
15:10~16:40 (90分)	【パネルディスカッション】 「環境活動と物流改善に向けて」 ・各企業および企業間にわたる課題 (源流管理、共同物流、モーダルシフト、リバース等) ・環境活動の評価尺度と評価 ■司会進行: 増井 忠幸氏 (武蔵工業大学) ■パネラー: 3名程度
16:40~17:00 (20分)	「ロジスティクス環境会議の活動紹介」 ロジスティクス環境会議 広報・普及専門委員会
	閉会

※全体司会進行: 事務局

4. スケジュール (案)

	9月			10月			11月			12月	
	■第4回	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	■第6回	■第7回	上旬	中旬
広報・普及専門委員会	■第4回		■第5回					■第6回		■第7回	
1. シンポジウム開催											■12/17(金)
2. パンフレット作成							→				
3. DM送付								→			
※CGLメンバーはメール送信											
4. パネリスト打合せ									←→		
5. テキスト作成										→	
6. 後援、協賛申請							→				
7. その他											

以上

シンポジウムの骨子とシナリオ (案)

1. タイトル (案) :

A案：継続的な環境活動とコスト低減に向けて

— 個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる —

B案：今やるべきこと、ローコストオペレーションと環境活動の両立に向けて

今やるべきこと、環境対応が新たなコスト低減の着眼点

新たな着眼点、環境対応がコスト低減に直結 (への近道)

⇒上記の中から選定 (要修文)

— 個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる —

C案：環境活動と物流改善に向けて

— 可視化・ローコストオペレーションの実現 —

2. 参加対象：物流分野でこれから環境活動を推進したいと考えている製造業、流通業、物流業など

3. 骨子 (例) : ⇒シンポジウムで参加者に訴求したいこと

- 1) 環境活動の推進による物流諸活動の可視化と業務・コスト改善の実効性
- 2) 環境活動における定量的な把握、評価の現状と今後の方向性
- 3) 荷主企業、荷受企業、物流企業の連携強化の意義

4. パネルディスカッションのシナリオ (司会1名、パネリスト3名)

1) 事例発表／各パネリストから発表 (30分：10分×3社)

(1) 環境活動を始めた契機

(2) 活動を進めるうえで困難だったこと、克服の方法 (施策)

2) パネルディスカッション／コーディネータからの質問による各パネリストの回答 (50分)

(1) 環境活動の推進によって、コストにどのような影響を与えるか？

⇒各パネリスト回答

(2) どのような仕組みで実行し、どのような尺度で評価しているか？ツールはあるのか？

⇒各パネリスト回答

(3) 環境パフォーマンスの算定状況、改善効果は？

⇒各パネリスト回答

(4) 環境活動を拡大し、ローコストオペレーションに繋げるために必要なことは何か？

⇒各パネリスト回答

※視点 ①自社 ②取引先 ③行政 ④消費者

(5) 社内でのどのような人材育成を行っているか？

⇒各パネリスト回答

(6) その他

3) コーディネータまとめ (10分)

- ・環境活動をローコストオペレーションに繋げるために必要なこと
- ・ロジスティクス活動の定量的な把握と評価について
- ・課題のまとめ

①自社 ②取引先 ③行政 ④消費者

- ・人材育成の必要性
 - ・その他
- まず取組みを始めること

3) パネルディスカッションのパネラー候補

(1) 荷主企業

- ・NECロジスティクス(株)

※物流子会社は荷主の側面もあり、親会社の実態にも精通している

- ・三菱電機(株)
- ・キヤノン(株)

(2) 物流企業（運送事業者）

- ・(株)コイケ

http://www.koike.co.jp/index_top.html

- ・(株)ヤマタネ
- ・日本ロジテム(株)
- ・鴻池運輸(株)

ドライバーの意識向上による安全輸送、省エネ輸送、効率輸送の推進

※2004年度物流環境啓蒙賞（物流連）

(3) 小西委員長（横断的な立場）

(4) 荷受企業

- ・未定

ロジスティクス環境会議
シンポジウム参加者動員計画（案）

参加者動員目標 400名

1. 環境会議メンバー（無料） ⇒参加見込数 約300名

- 企業登録・・・・・・・・ 109社（1自治体含）
- 団体登録・・・・・・・・ 1団体
- 特別メンバー登録・・・・ 9名
- オブザーバー登録・・・・ 4省（8名）

- 1) 委員会登録者・・・・・・・・ 140名
※招待状（参加登録書）PDF版をeメール添付
- 2) 代表者・担当者・・・・・・・・ 110名
※委員会登録の重複者除く
※招待状（参加登録書）を郵送
- 3) 他部門の方への参加要請・・・・・・・・約200名（約2名／1社）
※委員会登録者、代表者・担当者の方より参加要請

合計 450名

2. 環境会議メンバー以外（有料） ⇒参加見込数 約100名

※但し環境会議メンバーから紹介者は無料

以下のDMリストにて11月中旬迄に案内書を発送予定

- 1) JILS 会員企業登録者 約2,500通
 - 2) 本部オリジナルデータ 約3,500通
本部未会員企業の物流技術管理士講座／セミナー等参加者
経営企画部管理者 約800通
 - 3) 環境部門管理者など 約2,000通
- 合計 約8,800通

3. 関連団体への協力依頼

ホームページ、メールマガジン・会報誌への開催告知記事投稿等

※特に、以下団体には会員企業に対する案内書配布、DM同封を依頼（約3,000部）

日本経済団体連合会、物流団体連合会、流通システム開発センター、日本自動車工業会など

4. 広報

- 1) 『CGL NEWS』等による環境会議メンバーへの告知
- 2) JILSホームページに開催案内掲載
- 3) 協賛報道機関に關係資料を送付し、開催告知記事依頼

以上